

### 3、後屈の法則

胡桃は十字形に葉が出てゐるのであるが、時とすると二方にのみある様に見えることがある、これは上方にある一對の葉が後ろにまきこんで仕舞からである、そして下方にある葉の成長を防げぬ爲めの用心である。

○如何な長さの枝でも嫩は芽の所を除いては眞直になつて居るものは無い、これは葉群が營養及光線を求むる爲に或る方向を取らんとするから、枝も葉の欲する位置に支へんとして曲がるのである、そして、曲がる作用は一は葉が適當の場所を得んとする葉自身の活動より起るものと、一は枝に葉が着生し繁茂しその重量によりて起るものと二つである、尙此外に地方風の爲には枝も葉も其外幹でも曲げらるゝことが多い。

葉群の重量は大きな枝にかかる、故に時とすると、重い方の枝が下方に傾いてしまつて、他の一方の枝がよく繁茂することがある、これはハルディング氏の好んだ樹の型である。

完全な樹木の形式は、恰も葦か又は花椰菜形である、併し實際には、地上からも芽生があるから下方の空間を枝で埋めてしまつて葦の如く見えぬ場合も多い。(完)

#### 日本水彩畫會新會友

奈良縣生駒郡山町南郡山

高山昇

新潟縣三島郡出雲崎町

長谷川善作

埼玉縣北足立郡三橋尋常小學校

加藤鐵太郎

### 寄書

つたなき經驗

△水貼をするのに、海綿で擦るのは慣れないと紙面を損傷する、水の中に漬るのが一番安全の様に思ふ。

△水貼のブロッツクの事が「みづゑ」卅四號に載つて居たので行つて見たら好成績、然し水を切つて置かぬと最下の縁貼紙の糊が利かなくなる。

△雲を畫くのに餘り洗ふと光澤が無くなるので、極淡い色を重ねて行つたら、線が淡く一寸うまく出來た、但し例外は有り。

△細い幹も不細工だが、太くて木の葉が小さくなつて居るのも變である。

△木の葉を點て畫くのに、點と／＼の間を少しあげて置いて重ねて行くと、後で面白く見える。

△輪廓を取るのに、一つ／＼濃淡色彩迄畫くのは、後で繪具を塗り始めると少しもわからなくなる。

△樹木の陰は暗いものだと思つて無やみに塗ると深味が無くなつた。

水貼のとき海綿で軽く磨くことは時として必要なり紙によりては繪具を弾くものあれば(編者)